

政治経済英語Ⅱ

科目ナンバリング ENG-104
選択 2単位

寺川 隆一郎

1. 授業の概要(ねらい)

「政治経済英語Ⅰ」に引き続き、本授業でも、「多読」用の教材を使い、まとまった量の文章を読み切る経験を積んでもらう。指定教材は、政治経済、歴史、社会問題をテーマにしたものである。高校まででは触れることの少ない、時事英語や経済英語に触れ続けることで、実際の英文を読む力を養うことを目指す。
教科書は、以下の候補から数冊選定する。

2. 授業の到達目標

英語で書かれた政治経済分野の文章を、辞書に頼らず大意をつかめるようになる
政治経済分野で頻出する英語表現や概念、単語を習得する

3. 成績評価の方法および基準

確認テスト30%、期末テスト40%、平常点30%

4. 教科書・参考文献

教科書

小林佳代(ジャイルズ・マリイ訳) 『The Japanese Economy 日本の経済』 IBCパブリッシング
トム・クリスティアン 『The Mark Zuckerberg Story Facebookを作った男:ザッカーバーグ・ストーリー』 IBCパブリッシング

Young, James Webb A Technique for Producing Ideas McGraw-Hill

参考文献

大西泰斗、ポール・マクベイ 『一億人の英文法一すべての日本人に贈る「話すため」の英文法』 東進ブックス

5. 準備学修の内容

毎回の授業までに、教科書の指定された範囲を通読する。
毎回の授業では、2,000ワード(A4ダブルスペースで10枚)程度の長文を扱う。英文の難易度は英検2級レベル以上のものを予定している。英検準1級レベルの人が通読するだけでも30分弱かかる量と難易度である。自分の英語力と相談の上、十分に時間をかけて予習をしていくこと。

6. その他履修上の注意事項

定員50名。超過する場合には抽選を行う。
英語の構文や、政治経済の概念・仕組みなどで不明な点があれば、授業時に質問すること。積極的な発言は平常点に加算する。

※授業の実施方式について

今年度の対面授業は、感染防止に十分に配慮したうえで実施する。教員と学生、学生と学生の身体的接触をできるだけ控えるため、資料や答案のやり取りは、すべてLMSを介して行う。具体的な実施方式は次の通り。

1. 学生は、授業日の2日前にLMSにアップロードされる「内容確認問題」に事前に取り組んでくる
2. 教員は、授業開始時間に「模範解答」をLMS上に表示させる
3. 学生は、教室で、自分のスマホなどでこれを閲覧し、事前に準備した自分の答案を自己採点する
4. その後、各設問について、教員が一人ずつ指名して、文法事項について質問する。主に、「4文型」(大西文法)や、それを踏まえての修飾語句の構造についてである。
5. 自分が指名されたときでも、そうでないときでも疑問に思ったことがあれば、挙手して質問すること
6. 最後に15分ほど、オープンクエスチョンの回答を準備・入力する時間を取る

7. 授業内容

- | | |
|--------|------------|
| 【第1回】 | ガイダンス |
| 【第2回】 | 起業家論(1) |
| 【第3回】 | 起業家論(2) |
| 【第4回】 | 起業家論(3) |
| 【第5回】 | 起業家論(4) |
| 【第6回】 | 起業家論(5) |
| 【第7回】 | 確認テスト |
| 【第8回】 | 政治経済論(1) |
| 【第9回】 | 政治経済論(2) |
| 【第10回】 | 政治経済論(3) |
| 【第11回】 | 政治経済論(4) |
| 【第12回】 | 英文記事に挑戦(1) |
| 【第13回】 | 英文記事に挑戦(2) |
| 【第14回】 | 英文記事に挑戦(3) |
| 【第15回】 | まとめと期末試験 |